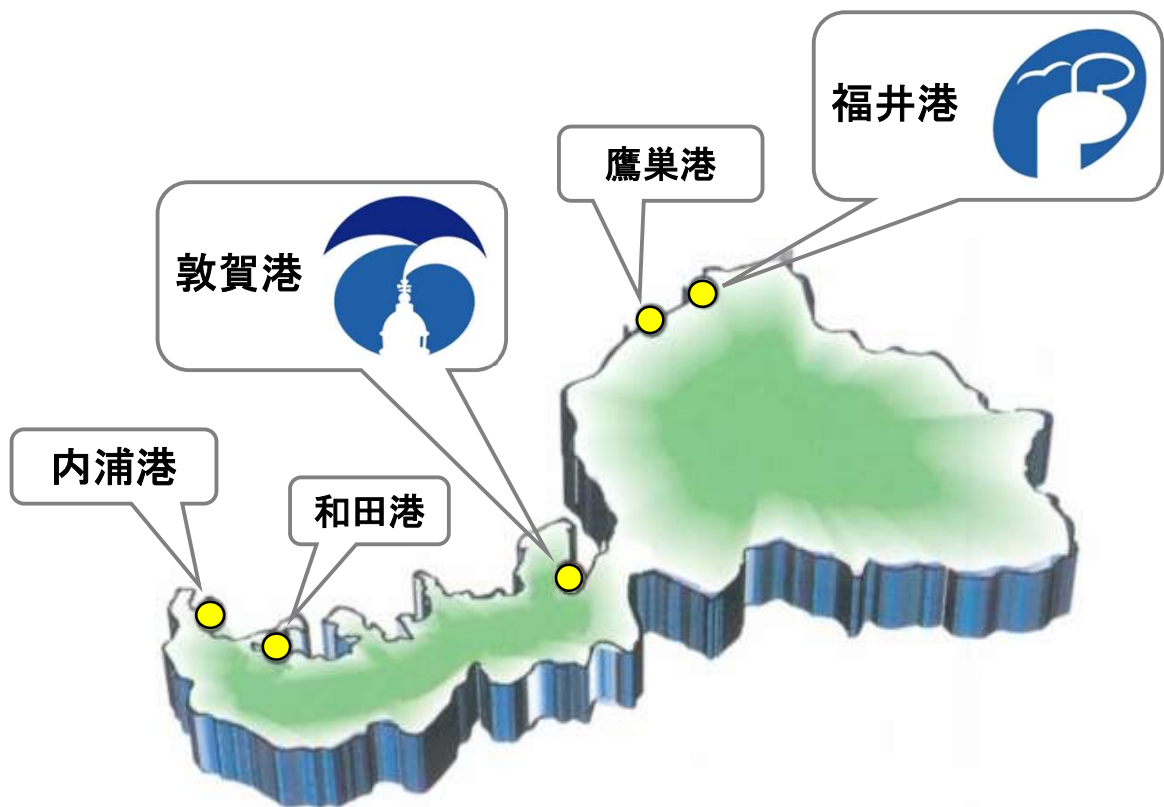


福井県内港湾の近況



福井県

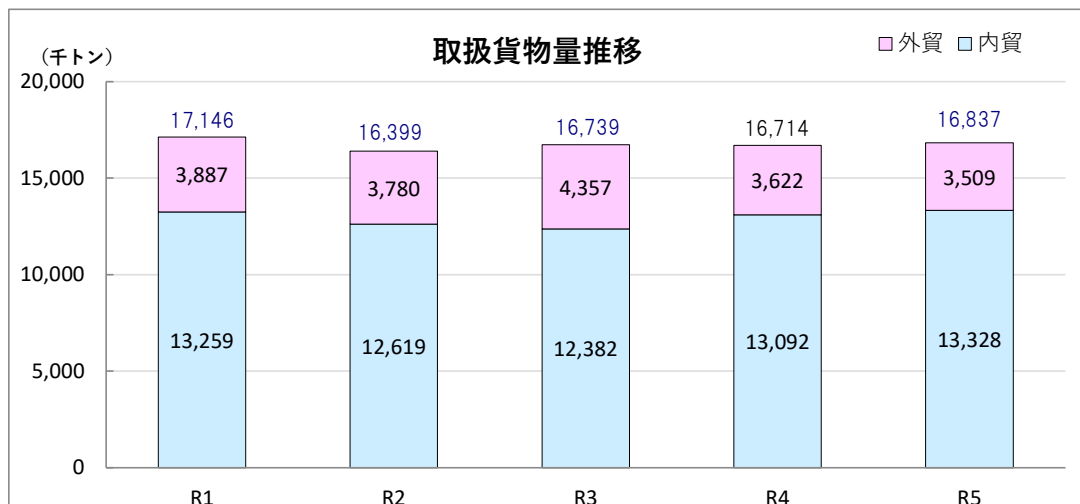
敦賀港取扱貨物量の推移と内訳

注) 各グラフの合計値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

1-1-1 取扱貨物量の推移

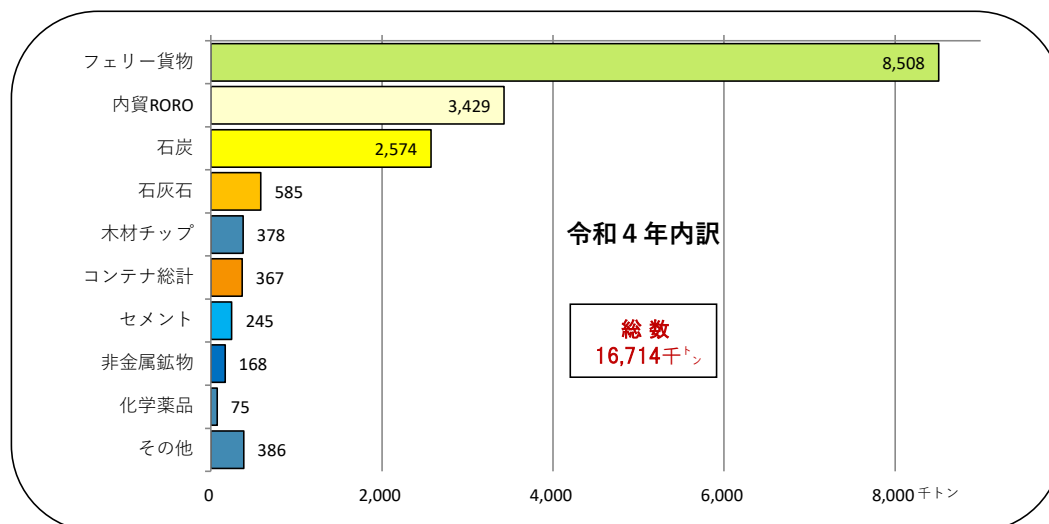
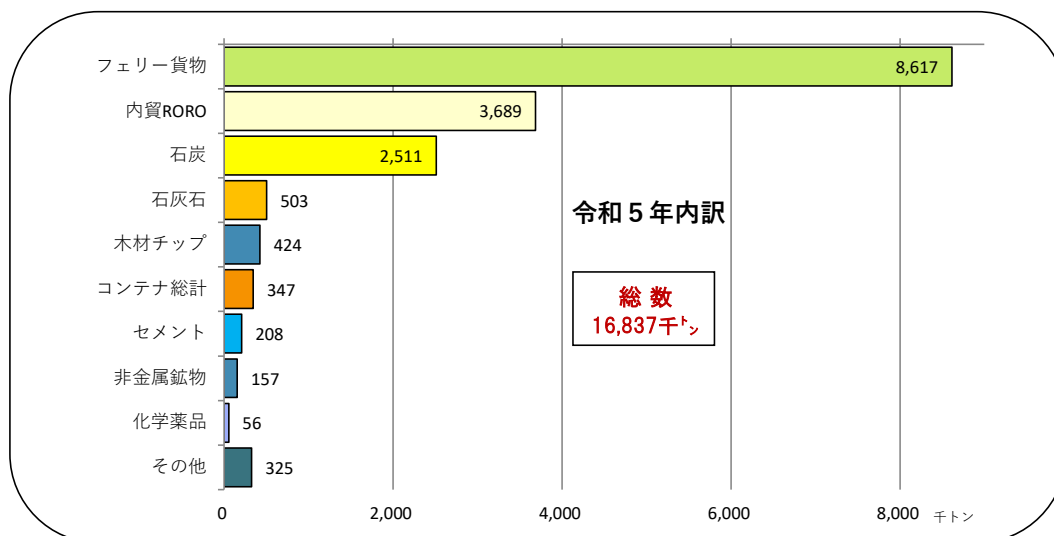
令和5年の取扱貨物量は約 16,837千トンで、前年と同程度でした。

内訳では、外国貿易が約 114千トン、3.1%減、内国貿易が約 237千トン、1.8%増であった。



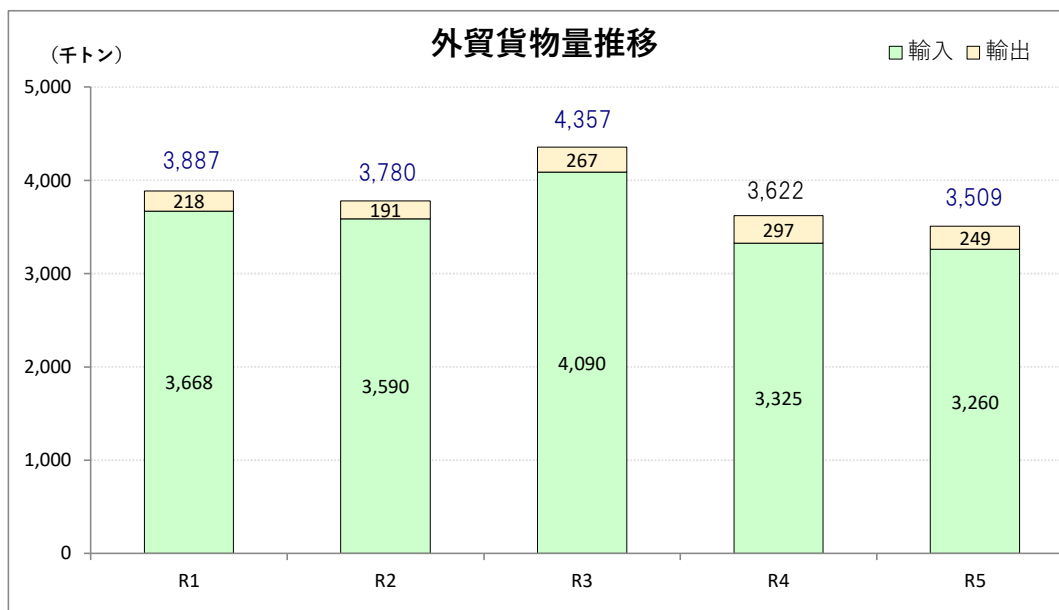
1-1-2 取扱貨物の内訳

敦賀港の取扱貨物の内訳は、内貿フェリー、内貿RORO船による貨物の合計が全体の約7割を占めている。



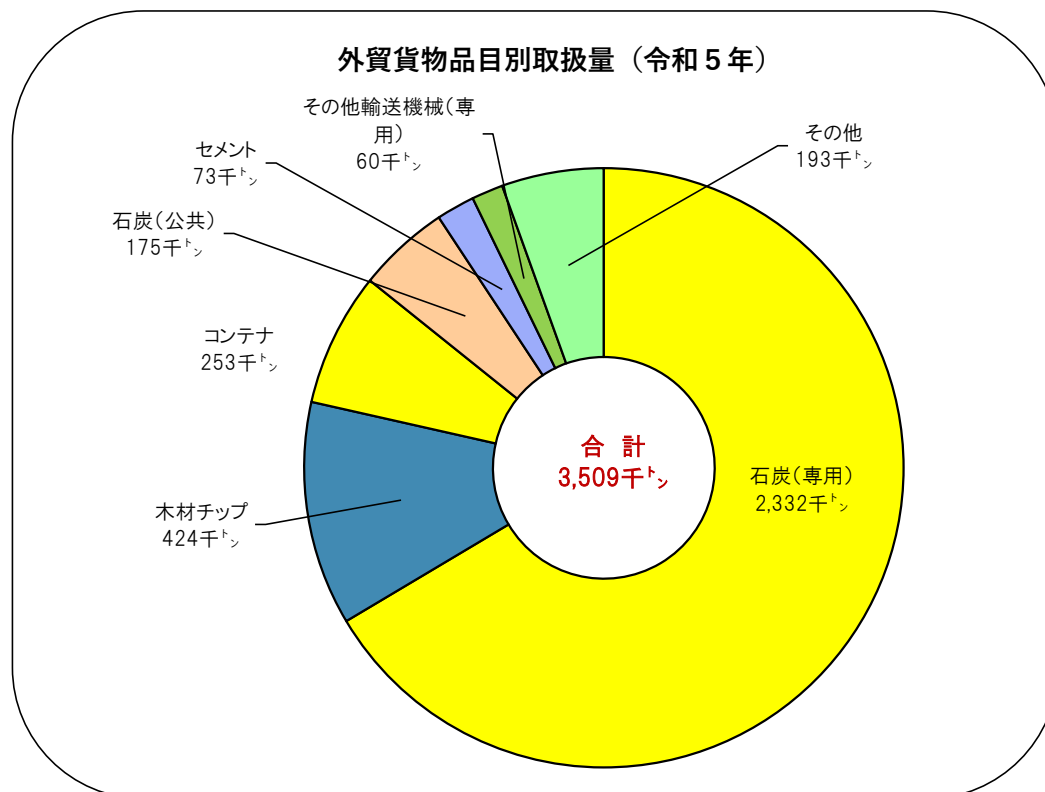
1-2-1 外貿貨物量の推移

外貿貨物量は約3,509千トンあり、前年より約114千トンの減少となった。(▲3.1%)



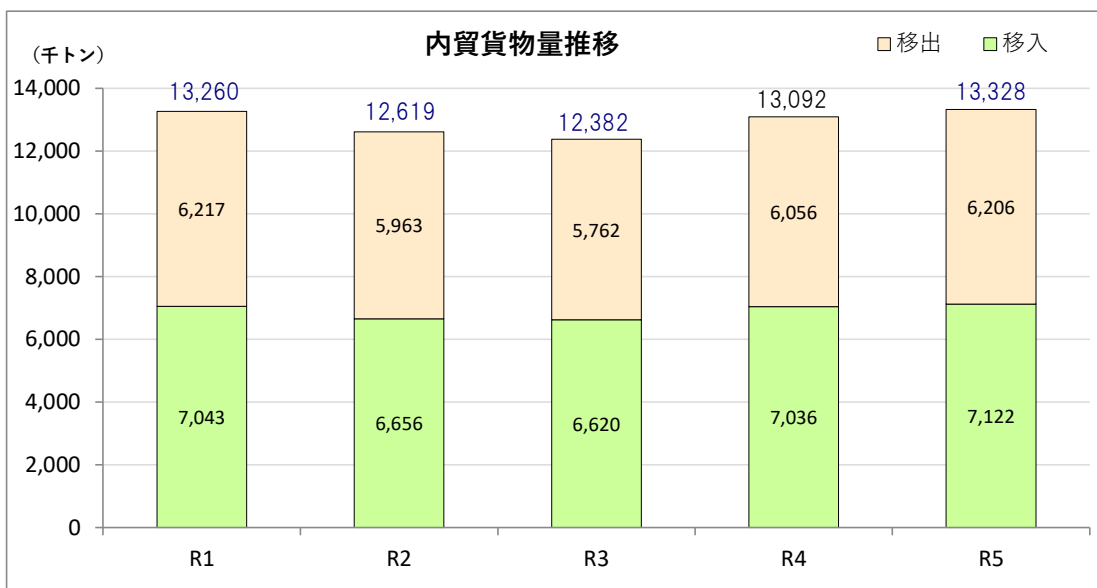
1-2-2 外貿貨物品目別取扱量

外貿貨物量の品目別では、北陸電力、敦賀セメントの専用埠頭で取り扱われている石炭が最も多く、全体の約7割を占めている。



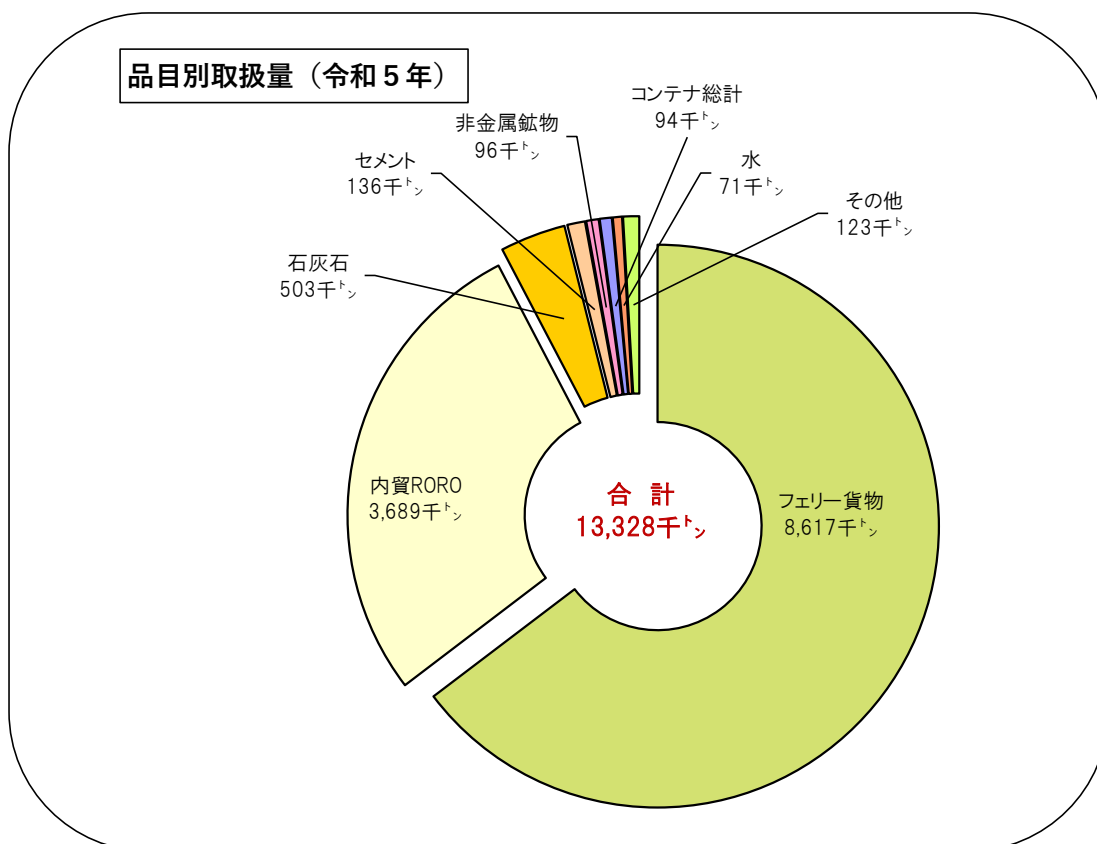
1-3-1 内貿貨物量の推移

内貿貨物量は約13,328千トンで、前年に比べ約237千トン増加した。(1.8%増)



1-3-2 内貿貨物品目別取扱量

内貿貨物の品目別では、北海道行のフェリー貨物・RORO貨物が合計で全体の約9割を占めている。



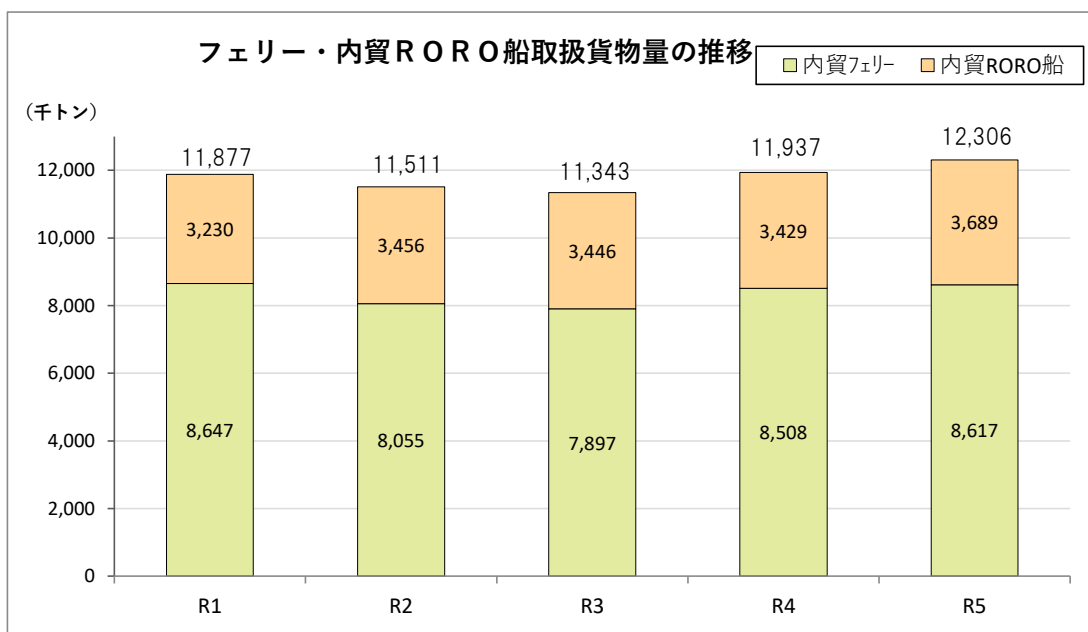
1-3-3 フェリー貨物・内貿RORO貨物量の推移

令和5年の内貿フェリー貨物は約8,617千トンで前年より109千トン増加した。(1.3%増)

また、内貿RORO貨物は約3,689千トンで、前年より約260千トン増加した。(7.6%増)

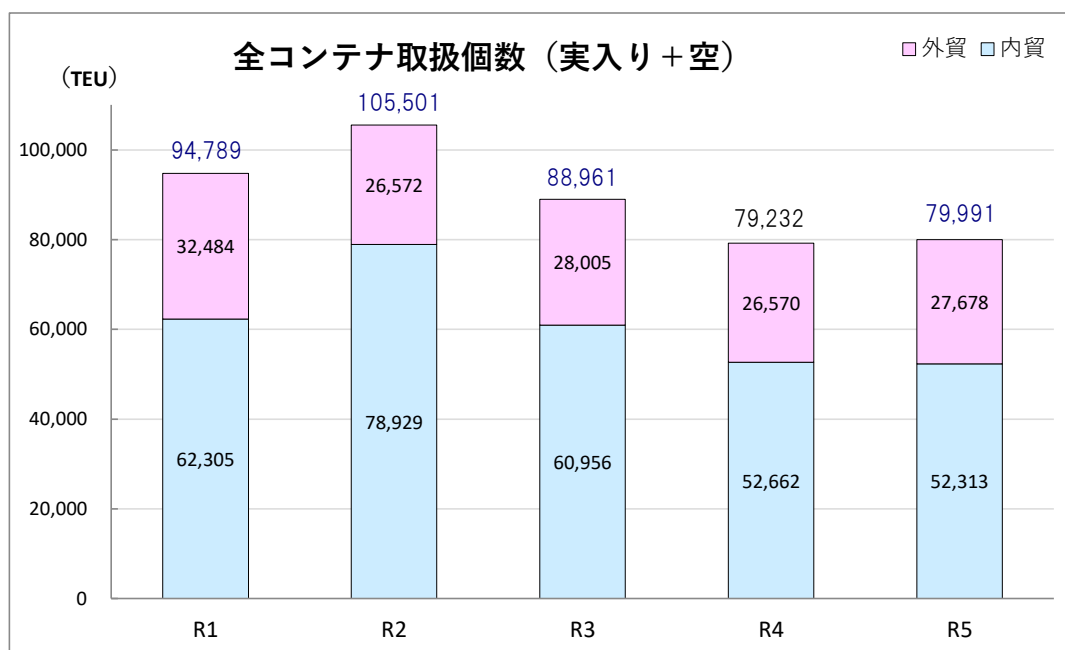
※ 内貿フェリー航路は昭和45年から開設しており、令和2年から苫小牧港への直行便(週7便)と新潟港、秋田港を経由する寄港便(週1便)で週8便就航している。

※ 内貿RORO船は、平成14年から航路が開設しており、苫小牧港への直行便(週6便)が就航している。
また令和元年7月から、博多港への直行便(週6便)が就航している。



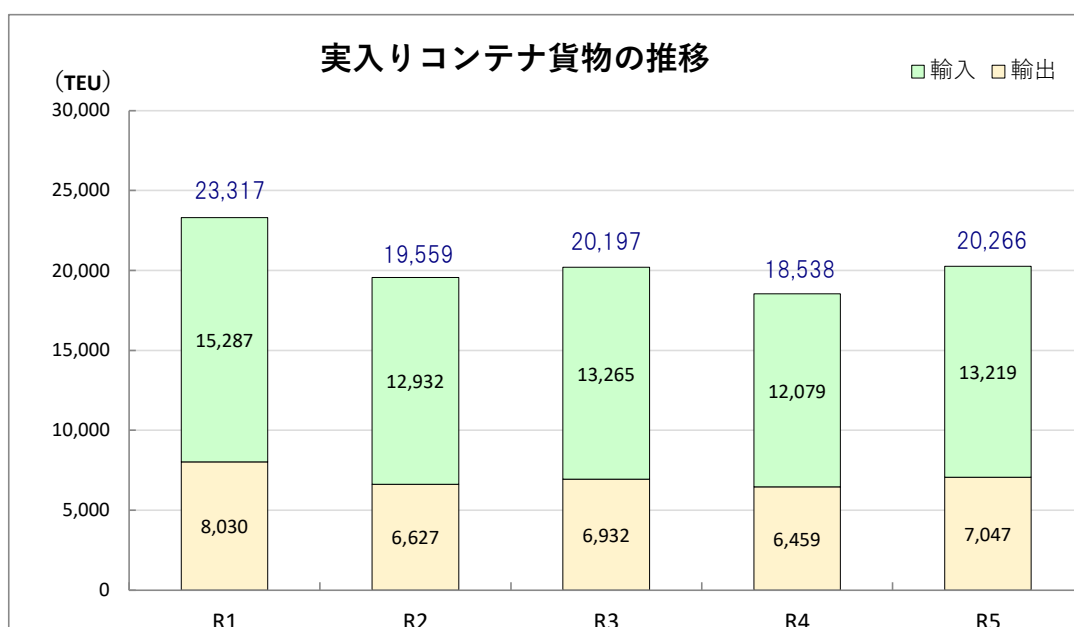
1-4-1 全コンテナ取扱個数の推移

全コンテナ取扱個数（実入り+空）は79,991TEUとなり、昨年より759TEU増加した。（1%増）



1-4-2 外賃コンテナ（実入り）取扱個数の推移

外賃コンテナ（実入り）個数は20,266TEUとなり、前年より1,728TEU増加した。（9.3%増）

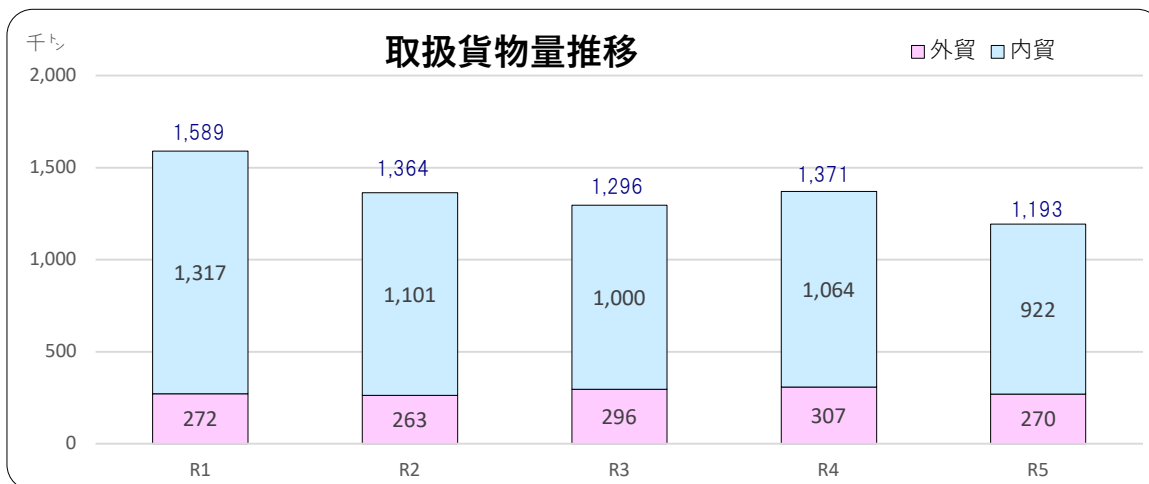


福井港取扱貨物量の推移と内訳

注) 各グラフの合計値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

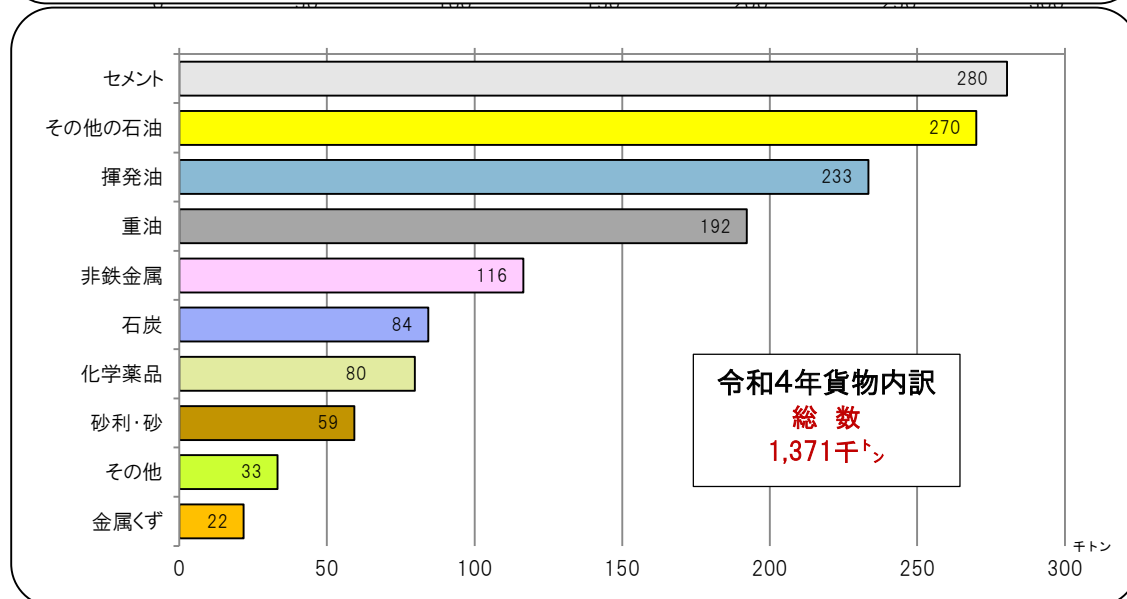
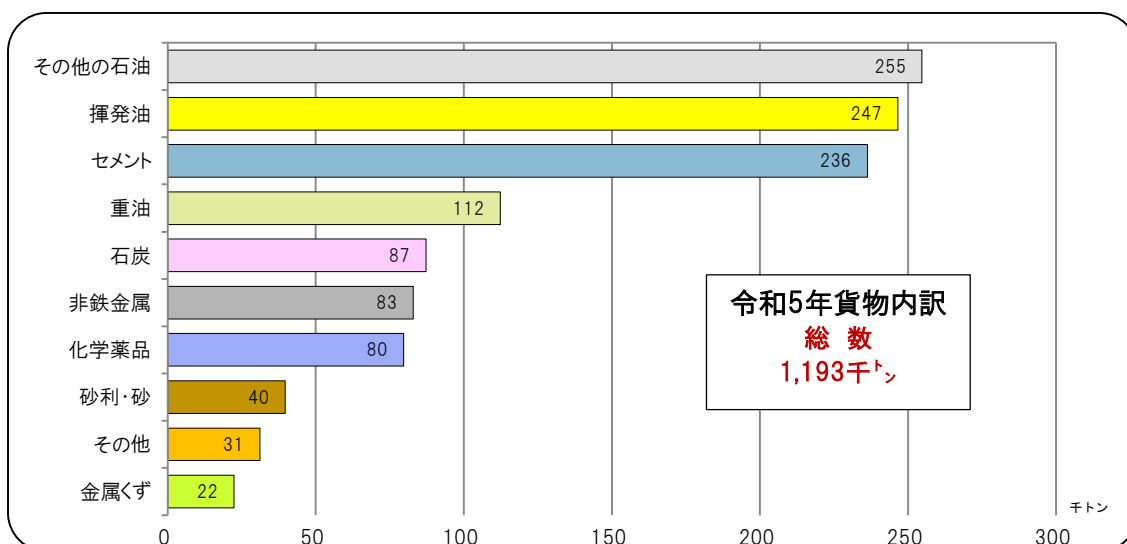
2-1-1 取扱貨物量の推移

令和5年の取扱貨物量は約1,193千トンで前年より約178千トン減（▲13%）であった。
外国貿易は約37千トン減で（▲12%）、内国貿易も約141千トン減（▲13.3%）となった。



2-1-2 取扱貨物の内訳

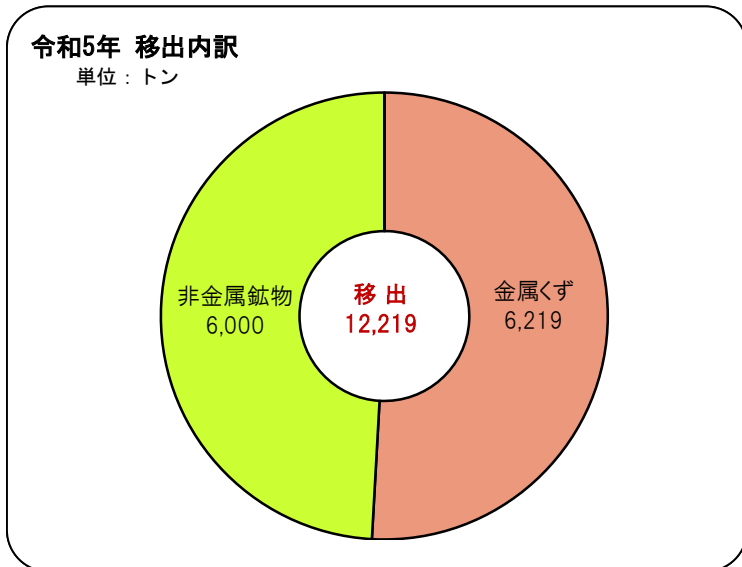
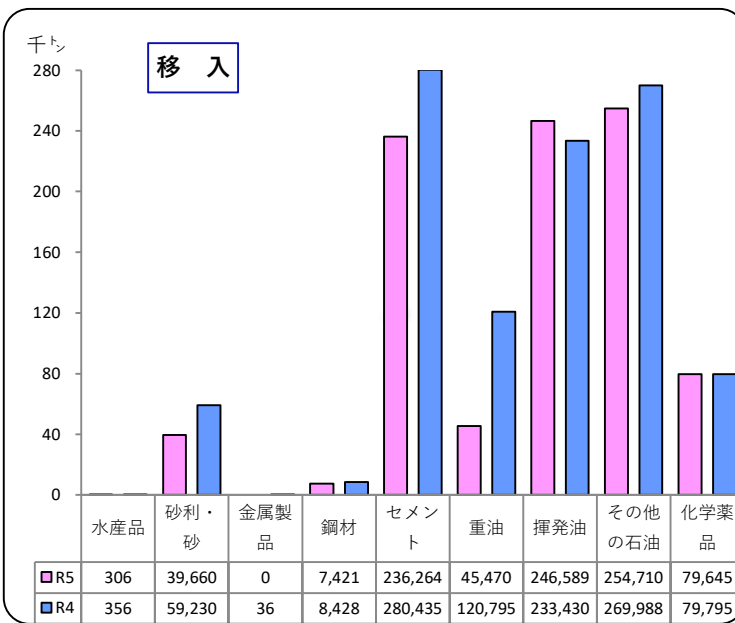
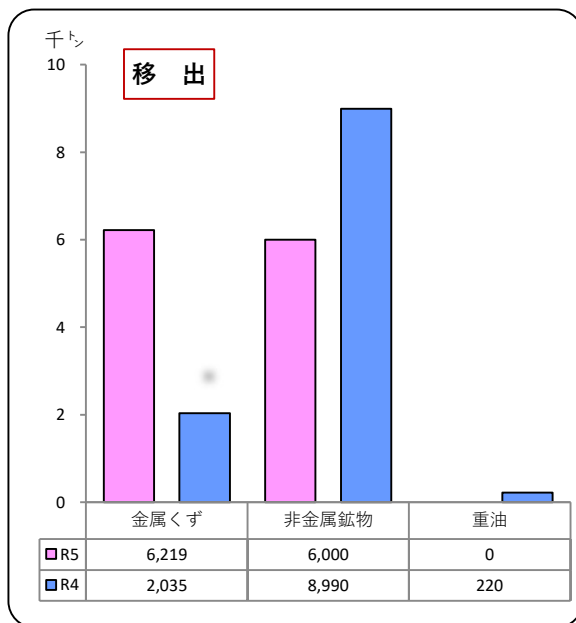
福井港における主要な取扱貨物は、その他の石油、揮発油、セメントである。



2-2-1 内貨物の内訳

令和5年の内貨物量は約922千トンあり、前年より約141千トン減少した。

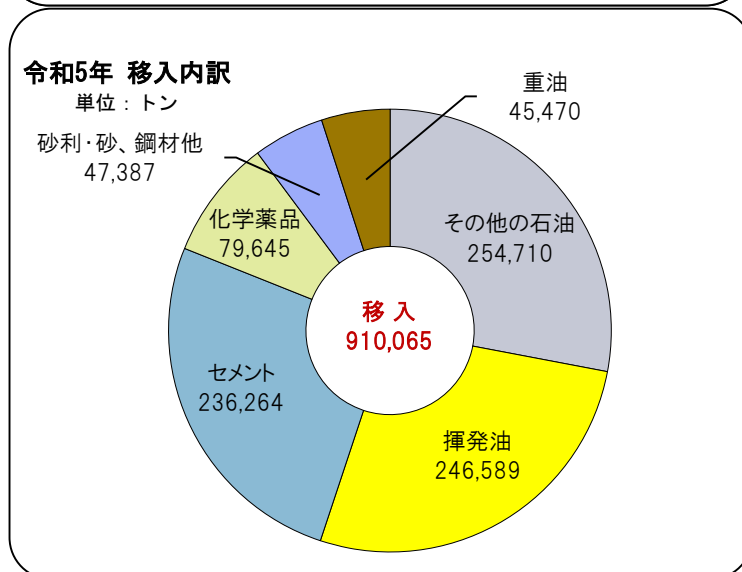
移出は前年より約1千トン増加したが、移入では約142千トン減少した。(▲13.3%)



移出

移出は前年より約1千トン増加した。
内訳として
「金属くず」が約4千トン増えたが、
「非金属鉱物」は約3千トン減少した。

(+8.7%)



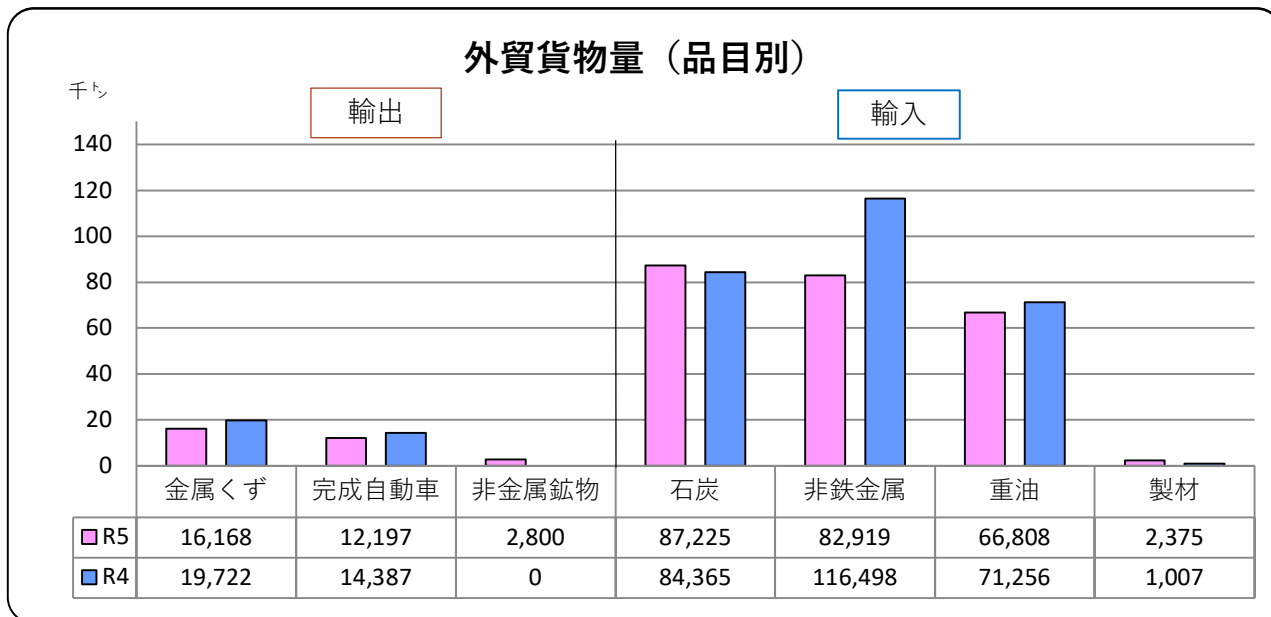
移入

移入は前年と比べ約142千トン減少した。
「重油」が約75千トン減少、
「セメント」も約44千トン減少した。

(▲13.5%)

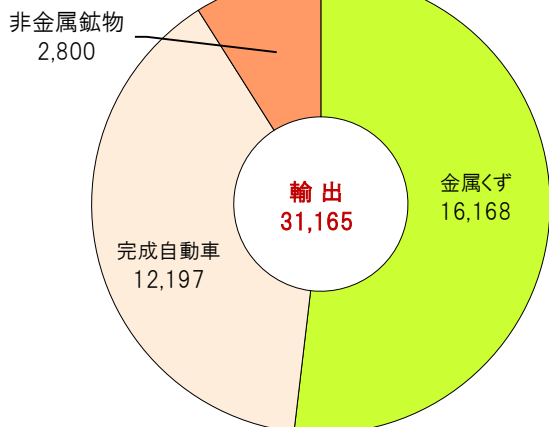
2-3-1 外貨貨物の内訳

令和5年の外貨貨物量は約270千トンあり、前年と比べ約37千トン減少した。(▲12%)



令和5年 輸出内訳

単位：トン



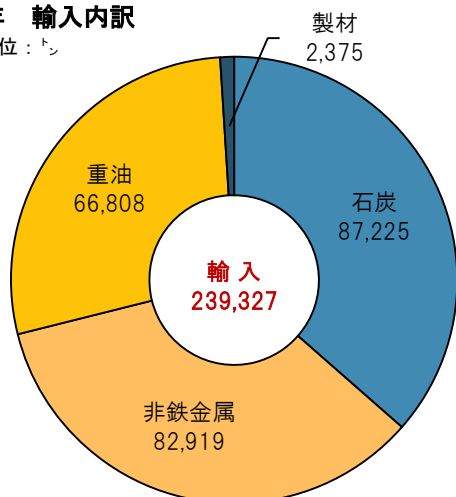
輸出

輸出は、前年に比べ約3千トン減少した。
(▲8.6%)

内訳として
「金属くず」が約3.6千トン減少
「非金属鉱物」の取扱いが2.8千トン純増した。

令和5年 輸入内訳

単位：トン



輸入

輸入も、前年より約34千トン減少した。
(▲12.4%)

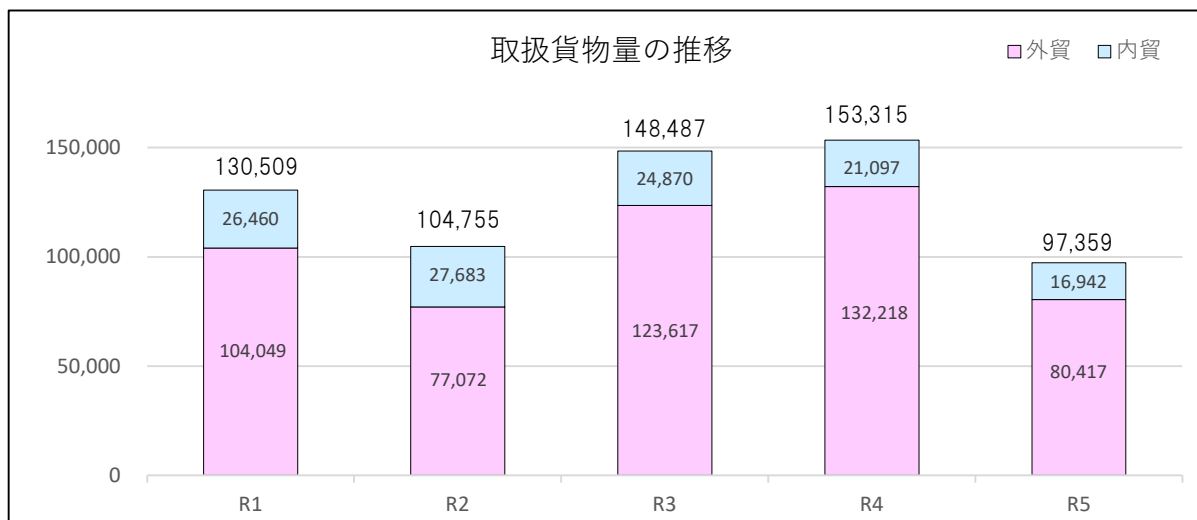
内訳として
「非鉄金属」が約33.6千トン減少したが、
「石炭」は約2.9千トン増加した。

内浦港取扱貨物量の推移と内訳

注) 各グラフの合計値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

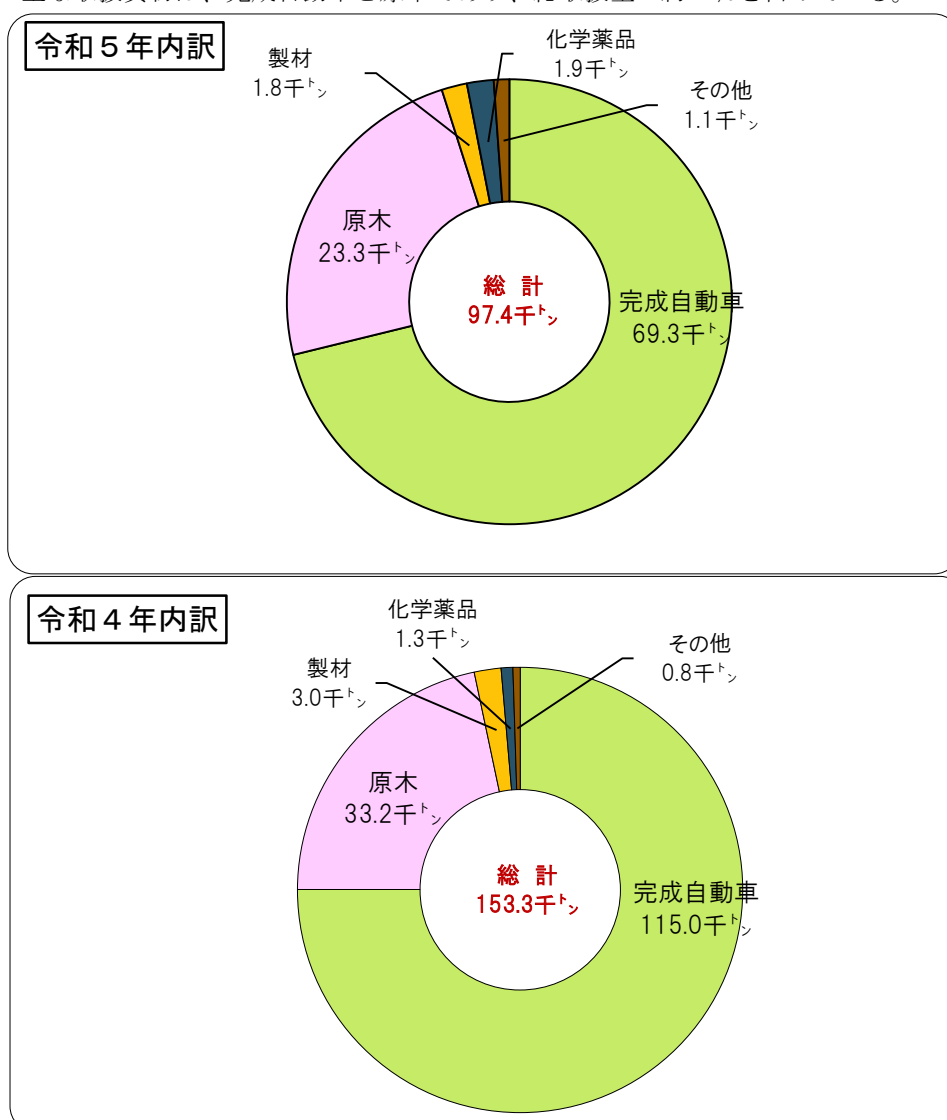
3-1-1 取扱貨物量の推移

令和5年の取扱貨物量は97,359トンあり、前年より55,956トン36.5%減少した。



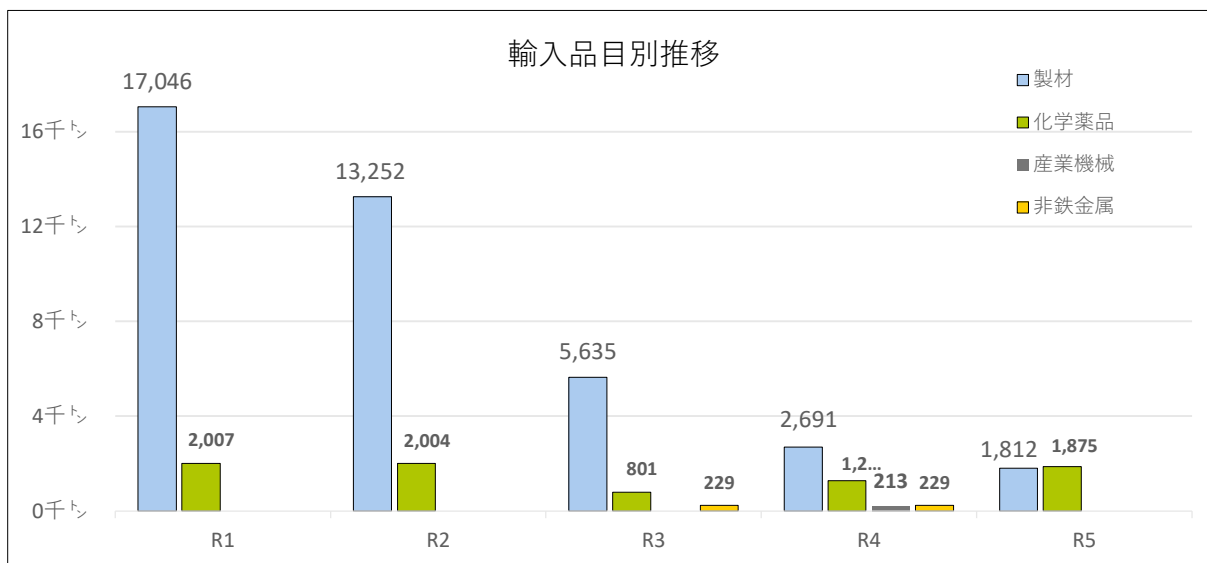
3-1-2 取扱貨物の内訳

内浦港の主な取扱貨物は、完成自動車と原木であり、総取扱量の約95%を占めている。

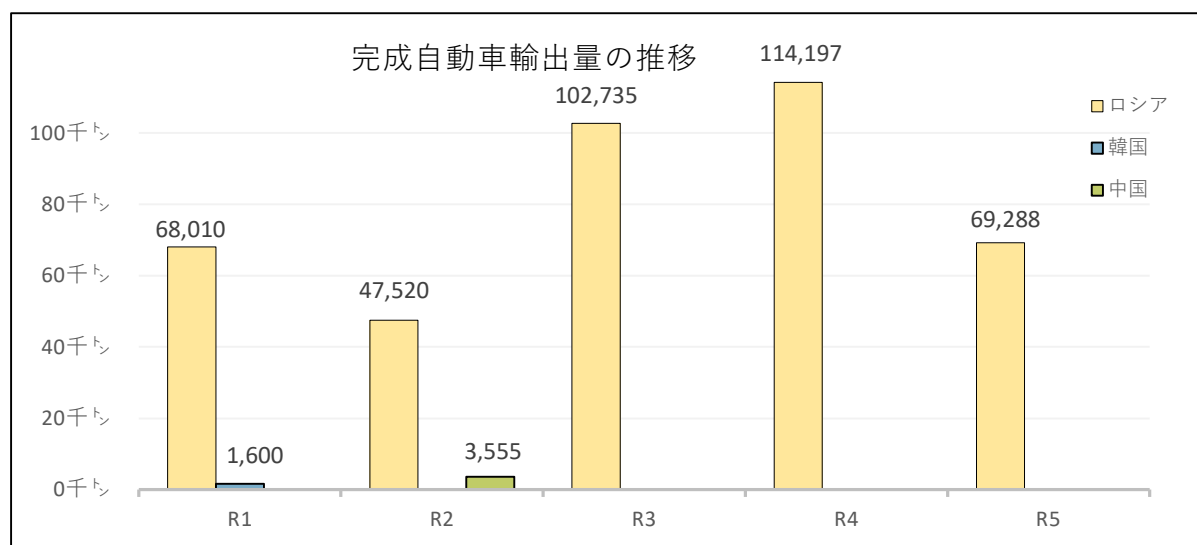


3-2-1 外貨貨物の内訳

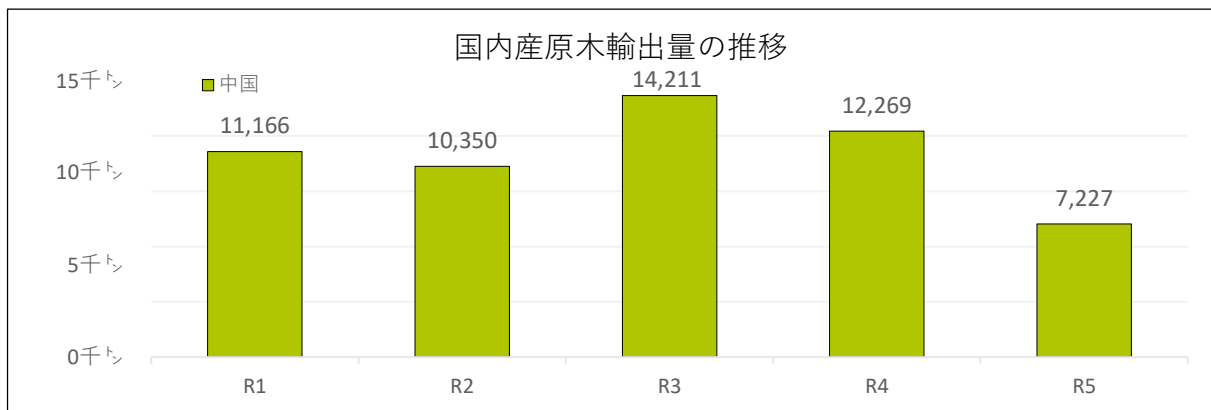
製材の輸入減少は、令和3年から製材をコンテナで運べるようになり、拠点を舞鶴港に移したことから令和5年の輸入量は1,812トンと前年から879トン減少した。(▲32.7%)



完成自動車の輸出は、内浦港の主要な貨物であり主要取引先のロシアでの令和5年8月からの輸出規制により、前年より44,909トン減少した。(▲39.3%)



国内産原木の輸出先は、中国で前年より5,042トン減少した。(▲41.1%)

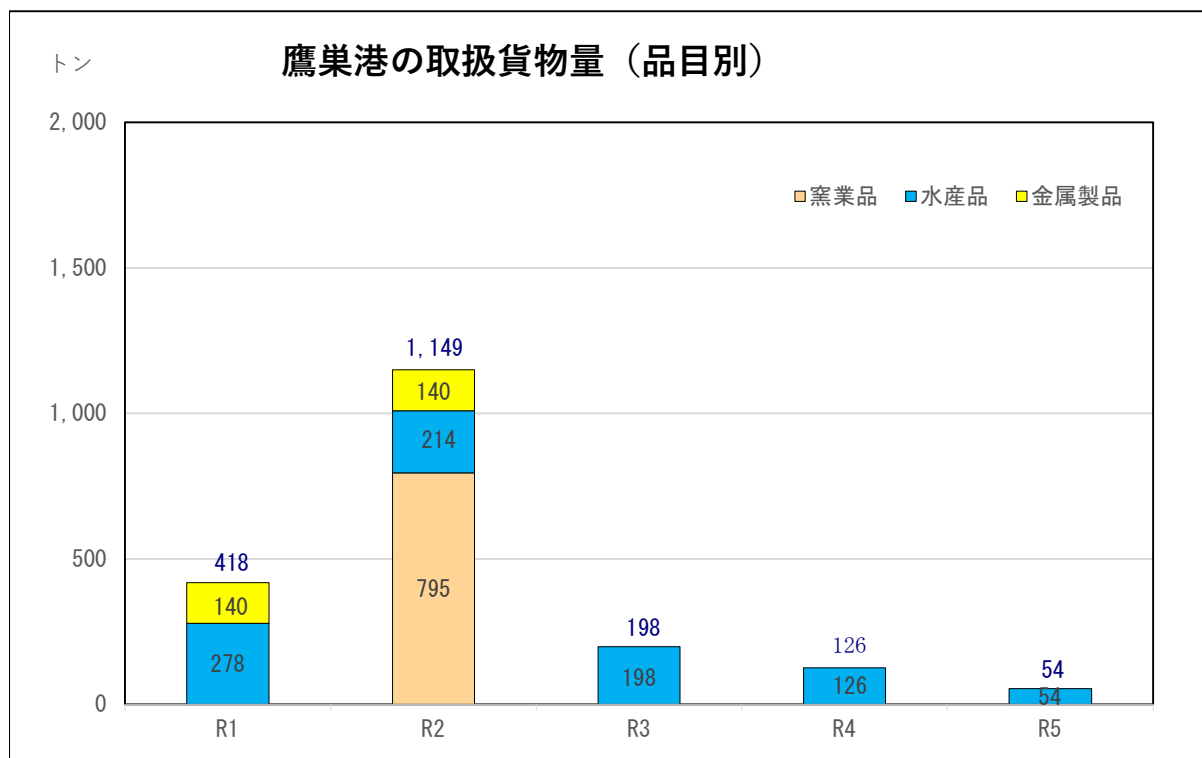


鷹巣港の港勢

注) 各グラフの合計値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

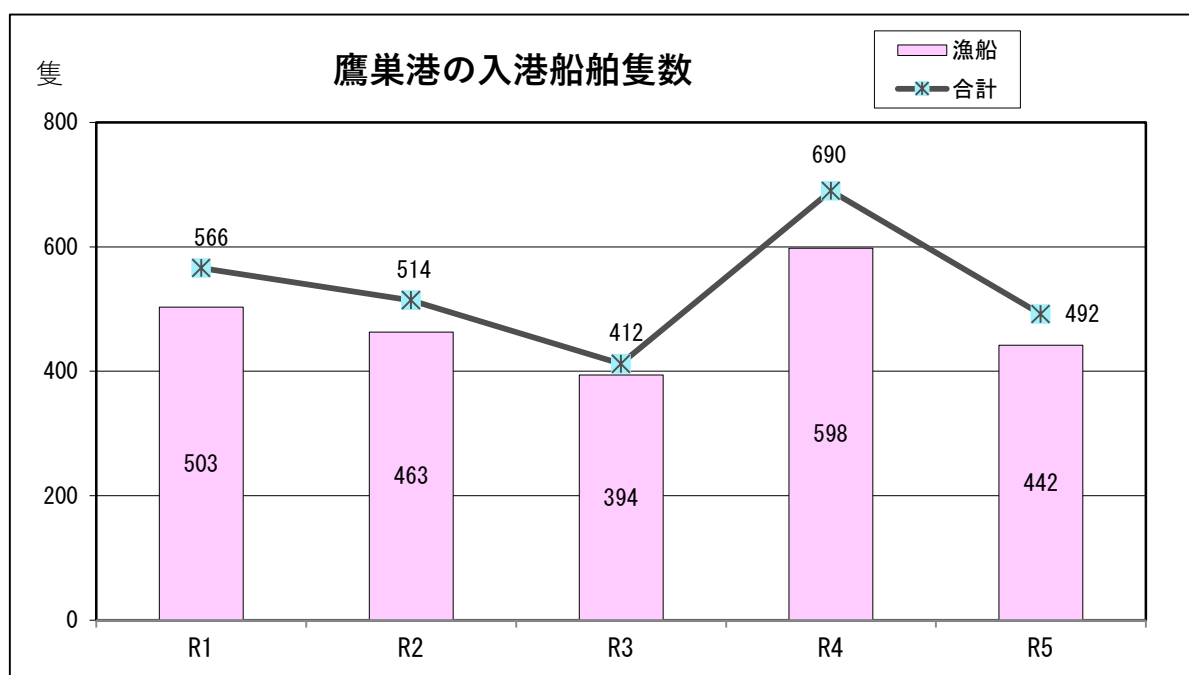
4-1-1 取扱貨物量の推移

令和5年の取扱貨物量は、前年と同じく水産品のみの取扱いで54トンだった。(▲57.1%)



4-1-2 入港船舶隻数の推移

令和5年の鷹巣港への入港船舶総数は492隻あり、漁船が442隻と89.8%を占めている。避難船の令和5年の入港実績はなかった。



和田港の港勢

注) グラフの合計値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

5-1-1 取扱貨物量の推移

令和5年の取扱貨物量（水産品）は366トンで、前年より124トン減少した。

(▲25.3%)

